

戦後80年 佐久の先人と 沖縄戦の記憶

未来へつなぐ、歴史の証言

新佐久市誕生20周年と戦後80年という節目の年に、佐久市の歴史と平和を考える特別講演会を、わがまち・佐久市民講座として開催します。太平洋戦争下の沖縄戦に焦点を当て、激動の時代を生きた「佐久の先人」の足跡をたどり、先人の思いや沖縄戦の記憶を受け継ぐ意義を考えます。

令和7年

9月14日(日)

13:30~16:00

(開場 13:00)

会場

佐久平交流センター

長野県佐久市佐久平駅南 4-1

TEL

0267-67-7451

※駐車場をご利用いただけます。

参加対象

どなたでもご参加いただけます。特に、未来を担う若い世代の皆様のお越しをお待ちしております。

参加費

無料

事前申込

不要です。当日、直接会場へお越しください。

出演者



基調講演 I

いとう じゅんろう

講師：伊藤 純郎氏

(筑波大学名誉教授)

基調講演 II

こいけ せいし

講師：小池 清志氏

(佐久の先人 小池勇助軍医 姪孫)

パネルディスカッション

パネリスト：柳田 清二 佐久市長

小池 清志 氏

野沢北高校生徒

野沢南高校生徒

コーディネーター：伊藤 純郎 氏

「戦後80年」という節目に、歴史と平和を深く考える

終戦から80年、郷土佐久市の歴史に深く刻まれた太平洋戦争下の沖縄戦の記憶と向き合い、佐久の先人たちが激動の時代をいかに生き、何を守ろうとしたのか。その足跡をたどり、未来に向けて何ができるかを共に考える機会とします。

沖縄戦と糸洲の壕（ウッカーガマ）

昭和20年（1945年）3月、戦火が沖縄本島に迫るなか、多くの住民が糸洲の壕（ウッカーガマ）と呼ばれる鍾乳洞へ避難しました。この壕は、後に日本軍の野戦病院として使用され、積徳高等女学校の学徒隊も配属され、極限状況下で献身的に活動しました。沖縄戦末期の6月に激しい攻撃を受け多数の犠牲者が出たこの壕は、戦争の悲劇と、そこで生きた人々の記憶を伝える場所です。佐久市では、令和6年度にこの糸洲の壕（ウッカーガマ）の学習環境整備を行い、郷土の先人たちの足跡と平和の尊さを学ぶ場としています。



識者の視点、遺族の証言、そして未来への対話

基調講演Ⅰ

講師：^{いとう}伊藤 ^{じゅんろう}純郎氏（筑波大学名誉教授）

演題：「沖縄戦の記憶と佐久」

沖縄は、本土防衛の最後の砦、本土決戦の捨て石とされ、「鉄の暴風」と称される砲撃を受け凄惨な戦場となりました。少年少女を含む沖縄住民を巻き込んだ本格的な地上戦となった沖縄戦に、長野県や佐久の人びとはどのように関わったのか、また沖縄戦の記憶をどのように受け継いできたのかについて、幅広い視点からお話します。

基調講演Ⅱ

講師：^{こいけ}小池 ^{せいし}清志氏（佐久の先人 小池勇助軍医 姪孫）

演題：「沖縄『積徳学徒看護隊』と佐久との交流」

郷土佐久に生まれ、医師として、軍医として激動の時代を生きた小池勇助少佐。沖縄戦では、野戦病院長として糸洲の壕（ウッカーガマ）で学徒隊を率い、多くの命を守ろうとした献身的な行動について、姪孫である小池清志氏に貴重な証言をいただきます。



小池勇助軍医肖像

パネルディスカッション：未来を担う高校生との対話

テーマ：戦争の記憶を未来へ～佐久の先人から学ぶ平和～

パネリスト：柳田 清二 佐久市長、小池 清志 氏、野沢北高校生徒、野沢南高校生徒

コーディネーター：伊藤 純郎 氏

戦後80年を迎える今、佐久の先人たちの思いや戦争の記憶をいかに次世代に語り継ぎ、平和な未来を築くべきか。若い世代の代表である高校生たちが、率直な疑問を投げかけ、未来への視点から活発な議論を展開します。

講師プロフィール



^{いとう}伊藤 ^{じゅんろう}純郎氏

昭和32年（1957年）、上伊那郡高遠町（現伊那市高遠町）生まれ。博士（文学）。長野県史や地域史にも深く関わり、『アジア・太平洋を問い直す』（清水書院）など、著書多数。『佐久の先人』監修者。



^{こいけ}小池 ^{せいし}清志氏

昭和21年（1946年）佐久市野沢生まれ。小池勇助軍医の姪孫。56歳で早期退職。第二の人生として「食べ物・エネルギー」自給自足100%の暮らしに挑戦し23年目となる。

主催：佐久市、佐久市教育委員会

後援：信濃毎日新聞社、佐久ケーブルテレビ株式会社、株式会社エフエム佐久平、佐久市民新聞